

平成 30 年 9 月 3 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370129

研究課題名(和文)高麗仏画における技法材料の解明 - 複製画による研究情報の共有 -

研究課題名(英文)Elucidation of technique materials in Goryeo Buddhist painting. -Sharing research information about reproductions-

研究代表者

ユウ ヨンゴ (YU, YUNGKO)

東京藝術大学・学内共同利用施設等・特任研究員

研究者番号：70401510

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：「高麗仏画」は韓国では特別な文化財である。それは自国文化の精華でありながら国内にはほぼ存在していないという特殊な事情に起因する。本研究は東京藝術大学蔵の「阿弥陀八大菩薩像」を研究対象作品とし、絵画技法・文化財保存修復・美術史・自然科学分析の各分野に専門性を有する日韓両国の研究者が協力し、高精度な複製画制作を実現するものであった。従来の印刷では表現出来なかった質感や顔料層の量感を表現した迫真性のある複製画を完成させた。韓国の東丘美術史学会での講演、アメリカのフリーア美術館での発表は有益な成果発信の場となり、複製画を教育現場や文化財保存の分野で活用することを提言し、日韓の文化交流にも貢献できた。

研究成果の概要(英文)：Goryeo Buddhist paintings have special significance as cultural assets in Korea. This is due to the fact that only few of the paintings are in Korea despite being a product of Korean culture. In this study, a high-precision reproduction of Amitabha with Eight Great Bodhisattvas, owned by Tokyo University of the Arts, was realized in cooperation with researchers of various fields including picture-drawing techniques, the conservation and restoration of cultural assets, art history, and natural sciences in Korea and Japan. Using these techniques, a convincing reproduction having a texture and surface quality that cannot be reproduced by conventional printing was produced.

Our presentation at the Dongak Art History Meeting in Korea and Freer Gallery of Art in USA showed that reproductions can be used in education and in the area of cultural assets. We believe we could contribute to the cultural exchange between Korea and Japan.

研究分野：文化財保存修復 高麗仏画 絵画技法 日韓交流

キーワード：高麗仏画 絵画技法 日韓交流 模写・模造 複製画

1. 研究開始当初の背景

高麗王朝(935～1392年)は仏教を国教とする唯一の国家であり、仏教の隆盛とともに花開いた繊細優美な仏教絵画である高麗仏画は、韓国絵画史を紐解く上で重要な位置を占める。しかし自国文化の精華でありながら国内にはほぼ現存せず、ほとんどの作品は生涯目にする事ができない、極めて希少な文化財であった。2010年に韓国で行われたG20首脳会談の際、国を挙げた企画として国立中央博物館において「高麗仏画大展 700年ぶりの再会」が開催されたが、世界各国に散らばった高麗仏画が一堂に会する、それまで最大規模の展示であった。国内所在の19点、日本所在の27点、欧米所在の15点の計61点をメインとした展示であり、専門家のみならず、一般の人々も初めて目にする憧れの仏画に感動し、高麗仏画への関心と、技法材料研究・模写研究への機運は一気に高まった。

模写には、オリジナルの作品の制作工程を追体験することによって、伝統的図様と絵画技法を効率的に習得する学習という意味合いの他、作品の現状の姿を欠損や剥落までも忠実に写し取り、文化財の価値を後世に伝えるという役割もある。また保存されている環境によって公開や移動が制限されている文化財についても、模写がオリジナルに代わり展示・活用されるなど美術史研究や一般の鑑賞に大きく貢献してきた。

文化財保護の一環としての模写は、古くは岡倉天心が企画した帝国博物館収蔵品のための模写事業が挙げられる。その岡倉天心らによって明治22年に創刊された雑誌「国華」の口絵図版として、初めて文化財が当時最先端であった印刷技術であるコロタイプ印刷によって手漉き和紙上に表現された。さらに昭和24年に焼損した法隆寺金堂内陣に描かれていた壁画は、昭和10年に行った原寸大撮影のガラス乾板を元にした再現模写が行われたが、手漉き和紙にコロタイプ印刷を施し継ぎ合わせ、その上から日本画絵具を塗布するという形で仕上げられている。その他にも二玄社・便利堂・大塚巧藝社等による写真製版のコロタイプ印刷による、ほぼ原寸大の絹本複製が普及し、特に台湾故宮博物館の収蔵品となっている。中国絵画の名品を対象とした二玄社の複製は、現在でも中国(大陸)の美術史研究や教育に不可欠な資料として活躍している。但し、コロタイプ印刷による複製は墨表現を主体とした文化財に対してはきわめて有効な手段であったが、高麗仏画のような重層的な表現による彩色技法が駆使された文化財の複製には十分な効果を発揮できていなかった。現在では、デジタル画像撮影の技術が飛躍的に向上し、高精細な画像を入手し、障壁画や屏風といった寺院所蔵の国宝・重要文化財を対象とした複製制作に取り組む企業も現れている。特に近年では、質感においても一定の再現を目指し、和紙・

絹・金箔地・板材など、東洋絵画における基底材への印刷に様々な試みが行われているが、原本の持つ臨場感の再現に至るには未だ研究課題が残されており、絵画技法研究の深化と、その成果を反映させたデジタルとアナログの有機的な融合技術に開拓の余地があった。

2. 研究の目的

本研究は両国が政治的局面を迎えている今こそ行うべき研究として、東京藝術大学が所蔵している「阿弥陀八大菩薩像」を研究対象作品として、模写制作の専門家、絵画技法史材料学の専門家、文化財保存修復技術者、顔料分析者、美術史家、撮影技術者等、各分野に専門性を持つ日韓両国の研究者の協力による高麗仏画の技法材料解明と、それを反映させた高精度な複製画制作を行うものであった。高麗仏画の絵画技法とは、顔料と膠を用いた、現在では日本にのみ継承されている技法である。かつてはアジアの中心的手法であったものの、韓国でもその源流国である中国でも、近代に入り、素材とともに失われてしまったものである。研究代表者はかつてあったその技法を修得するために来日し、唯一保持・継承する日本での、文化財保存修復活動・古典絵画研究・技法材料研究、人材育成を目的とし、改めてこの類ない技法である文化活動を自国において復興させ、後世に伝承させる必要性を痛感し、本研究の着想に至った。また現存する高麗仏画160数点の内、130点程が日本所在であり、日本での研究推進・深化は必須であった。本研究を一過的な交流事業にせず、更なる共同研究の促進につなげ、自国での文化財保存に寄与することが自身に課せられた責務であり、今後の日韓の対等な文化理解・交流・尊重に益することは大であると考えた。

3. 研究の方法

平成26年

絹を基底材とする作品の複製画制作については、絹の織目の粗密や糸の太さ等の問題から、印刷の際インクが絹目から抜け落ち、高精細な画像の印刷は困難を極めていた。しかし、支持体である絵絹の裏面に目止めのための和紙を接着させ、更に顔料を塗布するなど下地への工夫を凝らし、粗い絹目であってもインクが定着しやすい状態を検討した。様々な絹目での印刷や、地塗りの絵具の粒子をかえたサンプル、絵肌の凹凸をだすためのシルクスクリーン技術開発などを行った。研究・試作の末にシルクスクリーンの版を2種作製し、1点目は背景部分と図像部分に凹凸の差が出るようシルクスクリーン加工を施し、その上に芸大本「阿弥陀八大菩薩像」(原寸大)の高精細画像印

刷を行う。2点目は更に細部の凹凸、具体的には補絹箇所や墨など厚みの感じられないところは凹凸ようシルクスクリーン加工を施し、その上に高精細画像を印刷。3点目については凹凸が一切ないよう(シルクスクリーン技術を取り入れないで下地処理のみ)加工された絹に、高精細画像の印刷を行った。

平成 27 年度

26 年度に印刷した 3 種の高麗仏画に、金泥線や墨線部分に手彩色を加え、複製画を完成させ、実際に原本と照合した。閲覧の際には韓国から共同研究者らを招へいし、会議を実施、問題点や改善点を検討した。

原本閲覧に合わせ、高精細写真(H A S S E L B L A D)の撮影を行い、より質の高い画像収集に務めた。更に物質感・量感・空気感・臨場感が加味された複製画制作研究を推し進め、印刷時の光沢を抑えるための技法・材料研究を行い、更なる 8 点の試作や実験を深めていった。

平成 28 年度

26 年度・27 年度にかけて作製した 3 種の高麗仏画のうち、シルクスクリーン技術を取り入れた 2 種類の複製画について、16 世紀の表装形式で仕立てた。共同研究者・鄭于澤先生より高麗時代の貴重な資料を提供していただき、日本式のものとして、高麗時代から朝鮮時代初期にかけての表装仕立てで行った。

芸大本の「阿弥陀八大菩薩像」は頭部周辺の料絹が欠失しており、本来の姿を回復すべく失われた頭部図像を復元した推定復元複製画の試みに着手した。27 年度に撮影した高精細写真(H A S S E L B L A D)のデータを元に、類似する高麗仏画研究で集約された情報を加味しながら印刷用の原図作製を行った。

平成 29 年度

推定復元複製画の印刷に着手。支持体である絵絹の加工法、シルクスクリーン技術応用による絵肌凹凸の表現方法など、研究によって得られた最良の方法を採択して作製した。印刷後、手彩色を施して完成させた。

29 年 12 月に韓国・東国大学校にて行われた東丘美術史学会にて、講演「高麗仏画の複製画制作について」を行い、複製画について広く公開した。

本研究では東京藝術大学大学美術館で所蔵されている「阿弥陀八大菩薩像」を研究対象作品に掲げ、絵画技法・文化財保存修復・美術史・自然科学分析の各分野に専門性を有する日韓両国の研究者協力の元、高精度な複製画制作を行うものであった。高精細な画像の撮影や光学的な調査はさることながら、支持体である絵絹の加工法、シルクスクリーン技術応用による絵肌凹凸の表現方法、表装形式を日本式のものとして、高麗時代から朝鮮時代初期にかけての仕立て方法で行うなど、日韓両国間のそれまでの研究成果を持ち寄ることに大きな価値があった。そのことにより、従来の印刷では成しえなかった、質感・量感・空気感・臨場感をもとらえる複製画の完成を見ることができた。また現状を克明に写し取った複製画だけでなく、失われた頭部図像を復元した推定復元複製画の試みも行い、類似する高麗仏画研究で集約された情報を生かすことができた。

28 年度中は韓国内の政治情勢が不安定な時期もあったため、韓国での研究会や発表などが困難となり研究交流の場を設けることができず、研究も多少滞った。しかし、29 年 12 月に韓国・東国大学校にて行われた東丘美術史学会にて、講演「高麗仏画の複製画制作について」を行い、複製画について広く公開することが叶った。28 年のアメリカ・フリーア美術館での発表とともに、複製画や模写が教育現場や文化財保存分野、修復現場で活用され、更なる研究促進に繋がるとの手ごたえを感じた。研究資料の集約・充実化とともに、保存も達成され、大きく文化交流にも寄与できたものと考えている。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

○荒井経 発表 2017 年 3 月
「Goryeo Buddhist Painting」
Painting Analysis of Amitabha with Bodhisattvas at Tokyo University of the Arts
KREAN CUTURAL CENTER AND RIPLEY CENTER
HALL FREER GALLERY

○ユウ ヨング 発表 2017 年 12 月
韓国・東国大学校にて行われた東丘美術史学会にて、講演「高麗仏画の複製画制作について」

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

4 . 研究成果

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ユウヨンゴ (YU, YUNGKO)
東京芸術大学・社会連携センター・特任研究員
研究者番号：70401510

(2) 研究分担者

荒井 経 (ARAI Kei)
東京芸術大学・准教授
研究者番号：60361739

(3) 連携研究者

有賀 祥隆 (ARIGA Yoshitaka)
東北大学文学研究科・名誉教授
研究者番号：20133613

(4) 研究協力者

李 相炫 (Lee Sanghyun)
韓国 韓国伝統文化大学 教授

鄭 于澤 (CHUNG Wootaik)
韓国 東国大学校 教授

東京芸術大学

梁取 文吾 (YANATORI Bungo)
平尾 杏奈 (HIRAO Anna)
西川 竜司 (NISHIKAWA Ryugi)
金 慧印 (KIM Hein)
鄭 雲卿 (CHUNG Ungung)
永岡 郁美 (NAGAOKA Ikumi)